

## 当社保有特許の価値の定量的評価

### ○ 特許の価値の定量的評価（37頁）

様々な創意工夫や研究・開発に取り組んだ成果は、主にコスト低減等の経営効率化という形で効果を発揮します。そのため、特許技術が関係している主な効率化施策の累計コスト低減額を算定し、それを基に、特許の価値の定量的評価額を算出しています。

#### 特許出願の効果：特許の価値の定量的評価

評価年度	①施策件数	②特許技術が関係したコスト低減額	③特許の価値の定量的評価額(α)	④他社技術導入原資獲得額(α×A)
2014年度(I)	143件	366億円	154億円	(154億円×A)
2013年度(II)	137件	339億円	148億円	(148億円×A)
(I-II)	6件	27億円	6億円	-

※A:対象企業との事業規模比

#### ◇上表の「②特許技術が関係したコスト低減額」

新技術の特許出願していることにより事業活動の自由度を確保できている金額効果であり、2014年度は366億円となっています。

#### ◇上表の「③特許の価値の定量的評価額」

「特許技術が関係したコスト低減額」に特許の強さ等を加味して算定しています。これは、新技術が特許で担保されていることにより当社のみが享受できている金額効果であり、2014年度は154億円となっています。

なお、特許の強さ等の評価項目は、特許庁の「特許評価指標（技術移転版・2000年公表）」をベースにしています。

#### ◇上表の「④他社技術導入原資獲得額」

クロスライセンスで他社から技術導入した場合に支払う対価相当額（2014年度は154億円×A）を示しています。

自社が対価性のある特許を保有していれば支払額が相殺されることから、他社技術導入の原資として特許の金銭的側面を評価したもので、相手先企業との事業規模比により算出される係数Aの値により変動します。